

## 海外に広く情報発信できる協会を目指して

会長 神庭正則

私たち協会は今まで海外、特にアメリカに本部を持つISAからの情報や知識で育ってきました。しかし現在20年という歴史を持つに至り、協会の実績も含め、広い立場で、多くの経験や実績を海外に発信し、“日本には樹木医の在籍する会社で構成された街路樹診断協会がある!”ということを示してゆかなくてはならない時がすでに来ています。世界への情報発信という部分で、私たち協会にはその責任があると考えています。来年5月に開催する街路樹診断協会設立20周年記念事業は、絶好な機会です。

20周年記念事業の海外担当と事務局で8月上旬に渡米し、海外の街路樹事情の中で先進的と言われる行政の1つであるニューヨーク市とのミーティングをはじめ、ISAとの関係をつくるために活動しましたので、その報告をいたします。今回は興味深いニューヨーク市の事例を中心に報告をいたします。

また、今後、ISAなどの海外の団体との交流も活発にしてゆきたいと考えています。

皆様のお力添えをお願い申し上げます。



### 「世界で広がるアーバンフォレスト政策と街路樹について」

関西支部副支部長 當内 匡

#### 1. はじめに

7月末から8月初旬にかけて、来年に計画している国際シンポジウムの準備も兼ね、ISA(International Society of Arboriculture)の国際大会に参加し、併せて海外での街路樹の捉え方や取り組み方について調査するため、ニューヨーク市の街路樹管理部局などを訪問して参りましたので、ご報告させていただきます。

#### 2. アーバンフォレスト政策と街路樹

ISA国際大会は3日間以上にわたって数多くの講演会が開催されていきました。テーマは樹木生態や保全、病虫害、土壌、危険木診断など樹木医的なものから、街路樹や都市緑化、経営関係など多岐にわたっていましたが、非常に興味深いのは全体の約4分の1が街路樹を主体としたアーバンフォレスト(Urban Forest)の育成に関わる内容であったことです。

アーバンフォレストは日本では、あまり聞きなれませんが、世界の都市政策の中では最近よく耳にする言葉です。都市の中に森を育て、気象変動やヒートアイランド、都市洪水などに対してレジリエントでかつ生物多様性に富んだ都市をつくっていかうとするものです。

街路樹もアーバンフォレストの要と位置付けられており、数を増やすとともに、樹冠率(canopy cover)を高めることが意識されています。また従来のように特定の樹種ばかり植えるのではなく、環境や地域性に配慮しながら樹種を選定し、生物多様性やエコロジーを高める努力が行われています。そして樹木がしっかり成長して二酸化炭素を固定するように、健康な樹木の比率を高めることが重視されるようになっていきます。



ISAオープニングセレモニー



左より大島事務局、Executive Directorポリハン氏、神庭会長、筆者

### 3. ニューヨーク市の街路樹政策

ニューヨーク市ではアーバンフォレストの育成のために、2007年よりMillionTreesNYCという大規模キャンペーン「100万本の植樹プロジェクト」を推進しはじめました。街路樹としても22万本が新たに植樹され、一昨年にその目標が達成されています。その目標達成には、市民団体や企業の協力や寄付が大きく関係しています。トヨタもメインスポンサーの1社でした。



ニューヨーク市街路樹部局訪問  
左よりコフラン氏(街路樹マップ責任者)、エリック氏(街路樹部局チーフ)、島田氏(公園局都市計画・GISスペシャリスト)



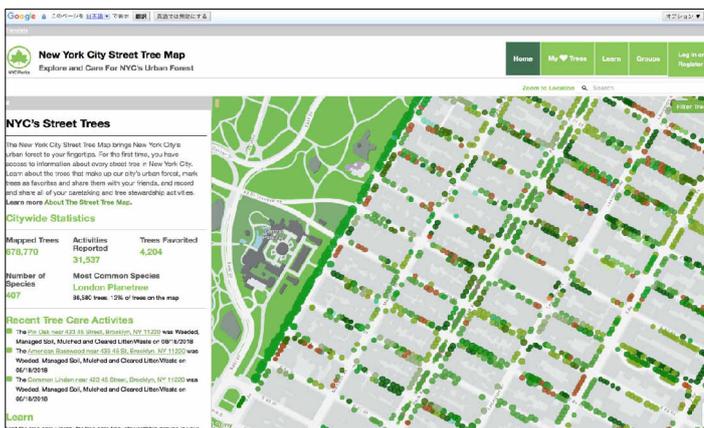
市民ボランティアによる街路樹調査の様子(ニューヨーク市ホームページより)

また、市民や社会が街路樹への価値観を高め意義を認識できるように、1995年から10年ごとに、ボランティアの協力を得て、市民参加型の市全域街路樹調査「TreeCount2015」を行っています。この調査では全ての街路樹の位置や大きさ、種類、樹木の健康状態が調べられています。

2015年に第三回目にあたる調査が実施されましたが、その結果は最新のIT技術を駆使し、街路樹66万本以上の詳細データがインターネット上にマップ化され、いつでも誰もが閲覧することができるようになっています。

この調査は、約3分の1が市民ボランティアによるものだったとのことですが、熱心な市民ボランティアに、その後の管理でも力になってもらえるように、街路樹マップでは好きな樹をマイツリーとして登録でき、また水やりや草引きなどのボランティア活動の記録も登録でき、SNSで友人に配信できるようにもなっています。

さらに米国森林局のI-Treeという、樹木のサイズや種類から、樹木のもたらす経済価値が計算されるソフトとも連携し、街路樹の価値を明確化し、街路樹に対する理解や住民への対応向上に役立っています。



ニューヨーク市ホームページで公開される街路樹マップ  
<https://tree-map.nycgovparks.org>



街路樹マップで公開される樹木ごとの情報

### 4. おわりに

日本の街路樹の管理予算は減少する傾向にあり、管理頻度が引き延ばしされ、剪定時には枝の伸長を見越して、ブツ切りにされてしまったり、更新する際にも、ハナミズキなど管理費がかからない小さな樹木に変えられることが多々あります。そのような方向性は、街路樹を重要なグリーンインフラとして考えはじめた海外とは全く逆と言えます。日本もグリーンインフラとしての街路樹の価値を改めて見直し、社会にアピールしていく必要があるのではないのでしょうか。

街路樹のあり方、管理の方向性について深く考えさせられる視察となりました。

## 研修会トピック

6月21日(木)に街路樹診断技術研修会を「リロの会議室」(東京・銀座)で開催しました。渡辺直明先生(東京農工大学)の講演の一端を紹介します。



### ● 緑のトリアージ ●

トリアージは医療現場で傷害疾病の程度に基づいて治療の優先順位を選別することで、最近では災害時の救急医療に関連してよく耳にするようになってきた。

では、緑のトリアージとは？

東京農工大学の学生に行っている“緑のトリアージ”についての実習授業の内容を紹介いただいた。

#### 〔実習授業の内容〕

- ①都内の文化財樹木を対象に、点の文化財として芸大美術館のシイノキ他3箇所と、線の文化財として迎賓館前のユリノキ並木他3箇所について、現地視認と行われてきた治療等の状況説明を行う。
- ②学生は解説を基に、それぞれの中から治療等の対策措置の緊急性の高い順位を考え、現在の状況とこれまでに行われてきた措置や管理を対比し、その意味付けを思考する。うち最も緊急性の高いものについて、樹木の健全性と安全性を中心に診断書の形式でまとめる。
- ③診断書の内容は、現在行われている管理、工事などの措置を簡潔に示した上で、2年以内と20年後の予測を基にその是非を考察し、代替或いは改善の案を提示する。

### ● 複数の技術者による「危険度診断」の差異比較 ●

樹木診断の結果が、調査者の属性(資格、学歴、性別、家族環境)や現地の交通量、手法等による差異を生ずることについて解説。

樹木診断に関係する資格はISAの認定するCertified ArboristやTree Risk Assessment Qualified(TRAQ)、専門医としてのBoard-Certified Master Arborist(BCMA)のほか、上位のArboristであるASCA、さらに専門性の高いASCA RegやRegistered Forester等がある。

ISA2017において発表された資料では、複数の資格を所持する調査者に対し低位の資格を単独で所持する調査者は診断結果のブレが大きく、またリスクを過大に見るという傾向が示された。この差異は、診断者の熟達度、経験が大きく影響していると考えられる。

### ● TreeAZ ●

TreeAZは開発現場での樹木の重要性を評価するために作り出された評価手法とそのアプリケーションであるが、他のバリエーションとして、樹木が保護する価値を持つか否かを評価するTreeAP(Preservation)や街路樹の品質管理に特化したTreeAS(Street tree)、樹木の歴史的継承価値を判断するTreeAH(Heritage status)がある。

TreeAZとそれらは樹木を評価項目に基づいてAA(Very important tree suitable for retention 適切に維持された非常に重要な樹木)からZZ(Poor trees unsuitable for retention 活力の低下した不適切な樹木)までの4つのカテゴリーへ分類することにより、それぞれの樹木の管理手法を定める資料とするもので、アメリカ、英国、オーストラリア版とそれぞれの地域ごとのバージョンが作成されている。

### ● ISA大会でのトピックス ●

トーマス・スマイリー(Thomas Smiley)博士による樹木のリスクアセスメントについての講演が行われた。講演では、特に重要なBest Management Practices(BMP)の用語として、

**Likelihood of impact** …人や物が傷つく可能性

低い↔高い

樹冠下の建物 100%

樹冠下を5秒で通り過ぎる 1/17,280/日

**Likelihood of failure** …枝や幹の損壊の可能性

起きそうにない、たぶん、確実に起きる、直ぐにいつでも起きる

**Consequences** …想定被害量

無視できる、少ない、重大、悲惨

**Occupancy rate** …対象がそこにいる頻度

常に、しばしば、時々、稀

についての解説や、前述の「危険度診断の結果差異」の説明がなされた。

## 雑感

阿部竜也 (関西支部/阪神園芸株式会社)

持論ですが、植物を診る職業において、あらゆる植物の生命に敬意を払うよう、常に心に留めておきたいと思います。たとえそれが仕事の目的を阻害してもそう考えます。

とは言いつつも、何らかの目的を遂行するうえで伐られたり、抜かれたりする植物達に感謝や遺憾の念を抱いても、「可哀そう」という感情を持つ事はありません。全ての場合ではありませんが、可哀そうという言葉には、問題をすり替え、植物を自分の尺度に当てはめるエゴを感じるのです。

私たちが植物に行うアプローチには常にエゴが付きまといますが、感情移入する事ではなく、正しく理解をしようとする気持ちこそ、エゴを認め、植物に敬意を払う事になるのではないのでしょうか。



樹木定期診断(大阪府内の商業ビル)



ナラタケモドキ腐朽部切削(サクラ)

### ピックアップニュース ～各種報道より～

#### 北九州市で街路樹4千本の緊急点検を実施(6月～9月)

5月3日に北九州市小倉南区の市道の街路樹が倒れ男性が負傷する事故が発生した。これを受けて北九州市では6月から9月までの予定で街路樹4千本の緊急点検を行っている。

対象は、①枯れ枝・部分枯れ、幹の空洞化、樹勢衰退の見られる路線で約2千本(平成27年度から街路樹の点検を強化、前述の状況が見られる路線を抽出し、約5,200本を計画的に点検。すでに39路線3,282本を実施(152本撤去)しているが、未点検の路線の街路樹を今回の緊急点検で点検する)、②国道、県道など、車両交通量や人通りの多い主要幹線道路、③直径30cm以上の樹木を含む路線、④腐朽菌が付きやすい樹種(ケヤキやサクラなど)。②から④に該当する街路樹本数は2千本。

点検は樹木医による目視と打診音チェック。キノコなどの早期発見のため根元植栽の剪定も併せて実施。倒木の可能性が高いものは速やかに撤去。精密診断が必要な樹木は10月以降レジストグラフによる調査を予定。緊急点検の費用は1,200万円。

また、市民に、枯れ枝や折れた枝がある、幹や根元に空洞がある、キノコなどが発生しているといった情報を寄せてもらうため、それらの注意点をまとめたチラシを作成して道路サポーターや公園愛護会などに配布している。

今後市では、市民の安全・安心を確保する観点から、街路樹管理の中長期的なあり方も考えていくという。

## 支部・本部の動き

2018年5月～8月

## 関西支部

来年実施予定の設立20周年記念国際シポジウムの準備を、中島支部長、當内副支部長を中心に行っています。本部との会議を重ねながら、大阪会場の選定、NPOおおさか緑と樹木の診断協会との連携、会員の役割分担などを進めています。

また、10月開催予定のNPOおおさか緑と樹木の診断協会、日本樹木医会大阪府支部との共催による「都市公園等における樹木の日常点検講習会」の準備も進めています。詳細については次回のお知らせに掲載いたします。

これらの準備を進めるため、7月24日に関西支部会を開催しました。特に国際シポジウムについては、様々な準備が必要であり各会員の積極的な協力が今後必要となりますので、支部の一致団結に向けた意思統一を図りました。

【お知らせ】「吹田市道路・公園樹木適正管理指針」が公開されています。

<http://www.city.suita.osaka.jp/var/rev0/0233/7631/118621185035.pdf>

指針検討には、中島洋一関西支部長が、(仮称)吹田市樹木適正管理指針策定検討会議に委員として参加しました。

## 九州支部

## 【実施】

8月 福岡県造協機関紙「エバーグリーン」都市と樹木の共生 リレー掲載 執筆:水野晴之

## 【講習会】

7月20日(金) 13:00～17:00 場所:佐賀市保健福祉会館 ほほえみ館  
第13回 樹木危険度診断講習会～樹木の効用と安全性確保に向けて～

## 【内部研修会】

7月21日(土) 9:00～11:30

街路樹診断士聴覚適正検査

日田市街路樹診断業務及び前回診断との検証

虹の松原診断業務の報告と前回診断との検証



講習会の様子

## 九州支部 第13回 樹木危険度診断講習会～樹木の効用と安全性確保に向けて～ 概要



講師陣(左から細野氏、飯塚氏、松本氏)

街路樹や都市公園の多くの樹木の老齢化・大径木化が進行し、倒伏や落枝による重大事故の発生リスクが高まっており、樹木の持つ機能や効用の増進と樹木の安全性の確保を継続的に両立させていくことが必要となっています。そして昨年(2017年(平成29年))9月に、国土交通省が「都市公園の樹木の点検・診断に関する指針(案)」を策定しました。これらのことから、大切な社会資本ストックとしての緑をどう維持していくのか、管理者にとってのヒントを共有できるよう講習会を企画、実施しました。

## 【講習内容と講師】

## 1. 美しい都市樹木のためのリスク管理 細野哲央氏(一般社団法人地域緑花技術普及協会代表理事)

社会から求められる樹木のリスク管理を知る／リスクへの対応として社会情勢・政策動向、裁判事例、リスク評価のノウハウ。…特に管理者が負うリスクについて認識していただけたと思います。

## 2. 都市樹木の落枝・倒伏事例と発生要因、「都市公園の樹木の点検・診断に関する指針(案)」の解説 飯塚康雄氏

(国土交通省国土技術政策総合研究所緑化生態研究室)

樹木のハザード、落枝・倒伏事例から推測する発生要因、都市公園の樹木の点検・診断に関する指針(案)の解説、今後の課題。…大木が倒れる動画などを交えて分かりやすく、管理者が樹木のハザードに対してとるべき行動について参考となったと思います。

## 3. 九州支部の診断事例 松本幸生氏(前九州支部事務局、九州グラウンド株式会社参与)

これまでの街路樹診断を踏まえてベッコウタケについて詳しく紹介。…車によるパトロールでは見えない地際の点検や専門性の高い診断の必要性を認識していただけたと思います。

**本部**

**【理事会】**

第4回 6月26日(火) 20周年記念事業(2019年開催)開催概要について

**【技術委員会】**

・技術委員会

第4回 6月21日(木) 樹木診断技術関連打合せ

・技術研修会

6月21日(木) 技術研修会(協会員向け)

演題:「樹木の診断一格付けとトリアージのはざま」

講師: 東京農工大学 渡辺直明先生

会場: リロの会議室「銀座中央通り」

8月21日(火) 街路樹診断研修会(一般樹木医向け)

演題:「街路樹の計画および管理」ほか

講師: 東京都建設局公園緑地部計画課道路緑化計画担当 課長代理 土居裕子氏ほか

会場: 清澄庭園 大正記念館

**【事業委員会】**

6月26日(火) 20周年事業企画委員会開催、実行委員会を組織

7月24日(火) 20周年事業実行委員会

**【街路樹診断士認定委員会】**

6月21日(木) 街路樹診断士認定委員会

8月30日(木)・31日(金) 第9回認定事業実施

**【予定】**

(1)20周年事業実行委員会 9月予定

(2)第10回定時社員総会 10月26日(金)15時予定

(3)会報第7号 発行予定

**【海外視察より】**〔写真:事務局(大島)〕



ノースカロライナ州シャーロットの住宅地の並木



International Tree Climbing Championship会場  
オハイオ州コロンバス フランクリンパークにて



ISA年次総会におけるスマイリー博士講演状況  
オハイオ州コロンバス グレイターコロンバス  
コンベンションセンターにて

**一般社団法人 街路樹診断協会**

**関西支部**

〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-8-14 (株)日比谷アメニス内  
TEL・FAX:06-6444-3990

**九州支部**

〒805-0033 福岡県北九州市八幡東区  
山路松尾町14番2号 一般社団法人 北九州緑化協会会館内  
TEL・FAX:093-651-5512

**北陸連絡事務所**

〒939-8253 富山県富山市新保271 (株)野上緑化内  
TEL:076-429-1310 FAX:076-429-4374

**台湾連絡事務所**

一般社団法人 街路樹診断協会 台湾籌備處  
台北市四維路176巷2號1樓  
TEL: +886 02-2325-6911